



2011年10月3日

社団法人 衛星放送協会  
会長 和崎信哉

### 新BSデジタル放送開始にあたり

今月1日からBSデジタル放送では新たに12チャンネルがサービスを始め、24チャンネルとなりました。さらに来年3月には7チャンネルが加わり、合計31チャンネルになります。BS放送において視聴者はより多くのチャンネルと向きあうことになり、放送事業者としての責任も大きくなります。そのためにも衛星放送協会としては、新規事業者の円滑なサービス開始が肝要と考えております。

また協会にとって、今年はとても重要な年と捉えています。それは視聴者の衛星放送への関心が高まり、3度目のスポットライトが当たると言うことです。1990年前後の衛星放送がスタートした頃を第1期とすると、BSデジタル放送開始の2000年12月から、その3年後の地上デジタル放送開始までを第2期、そしてBSデジタル放送で31チャンネルが揃う今年から来年3月以降が第3期と言えます。つまり衛星放送に3度目のスポットライトが当たり、さらに飛躍できる時が来たということです。

しかしこのようにチャンネルが増加することで、視聴者の選択肢が増えると同時に、満足度の高い多様なコンテンツを提供し、視聴者を魅了させているか、ということが重要となります。有料・多チャンネル放送の普及にはケーブルテレビ業界やIPTVサービスを提供している事業者との協力が不可欠であり、協会自身による強力な活動も求められます。そのためには無料放送とはひと味もふた味も違う魅力あるコンテンツを提供しているかどうかを、常に自らに問いかけていかなくてはなりません。また衛星放送協会としては、今年は110度衛星放送の帯域整理が予定されており、同時に、一般衛星放送であるCS124／128度のHD化推進という課題も抱えています。

今年は、衛星放送全体が盛り上がり、各放送事業者がコンテンツの魅力を強くアピールし、有料・多チャンネル放送のプレゼンスがさらに飛躍できるように進めていきたいと、10月1日を迎えてあらためて感じております。